

## 1 大船渡港国際コンテナターミナルの整備

国際フィーダーコンテナ定期航路の再開に必要な物件・施設でありながらも、国庫補助制度の対象外となった物件・物件を中心に支援を行っています。日本財団は下記①～⑥の支援物件・施設の整備に係る費用6億4,139万円を全額支援しています。

- ① コンテナターミナル管理棟 × 1 棟 (整備済み)
  - ・ 港湾施設職員がコンテナ貨物の貿易に関する事務手続き等を行う施設。
  - ・ 構造：軽量鉄骨プレハブ造 2 階建  
延床面積 84.85 m<sup>2</sup> (予定)
- ② コンテナ運搬用トラック及びシャーシ × 5 セット (配備済み)
  - ・ コンテナ貨物をコンテナターミナル内外に運搬するためのトラック及びシャーシ。
- ③ 共同利用コンテナ用上屋 × 1 棟 (2014 年 6 月完成予定)
  - ・ コンテナ貨物の集積保管施設であり、屋根部分に太陽光発電設備を設置予定。
  - ・ 構造：鉄骨造平屋建 床面積 2,000 m<sup>2</sup> (予定)
- ④ 税関検査場 × 1 棟 (2013 年 12 月完成予定)
  - ・ 税関職員が使用する施設であり、ここでコンテナターミナルに入出港するコンテナ貨物の税関手続きを行います。
- ⑤ トラックスケール (重量計測器) × 1 台 (2014 年 3 月完成予定)
  - ・ コンテナ貨物の重量を計測する設備。
- ⑥ フォークリフト × 3 台 (2014 年 6 月配備予定)
  - ・ コンテナターミナル内の様々な荷役作業に使用。



コンテナターミナル管理棟



コンテナ運搬用トラック

共同利用コンテナ用上屋  
完成イメージ

## 2 共同利用冷蔵・冷凍施設等の整備

水産加工品の輸出促進を目的とし、津波で流出した①～②の施設整備を支援しています。総額 10 億 5 千万円のうち、日本財団は 1 億 7,472 万円を支援しています。

- ① 共同利用冷蔵・冷凍施設 × 1 棟 (2015 年 3 月 完成予定)
  - ・ 水産加工品の貯蔵のために地元の水産加工会社が利用。放射能検査等に対応した食品検査室の他、津波対策としての屋上避難施設や環境対策での太陽光発電パネルを設置。
  - ・ 構造：鉄筋コンクリート造 3 階建 延床面積 3,530 m<sup>2</sup>
  - ・ 収容能力：5,000t (冷温冷蔵 4,000t、超低温冷蔵 1,000t)
- ② 上記冷蔵・冷凍施設の付帯施設 (2015 年 3 月完成予定)
  - ・ 共同利用倉庫施設 × 1 棟
  - ・ フォークリフト等関連設備 × 1 式

共同利用冷蔵・冷凍施設  
完成イメージ